

第 24 講 【 病理と病証 V 】 教科書 P.76～78

『 肝の弁証(病証) 』

復習 1. 『 肝の生理機能 』

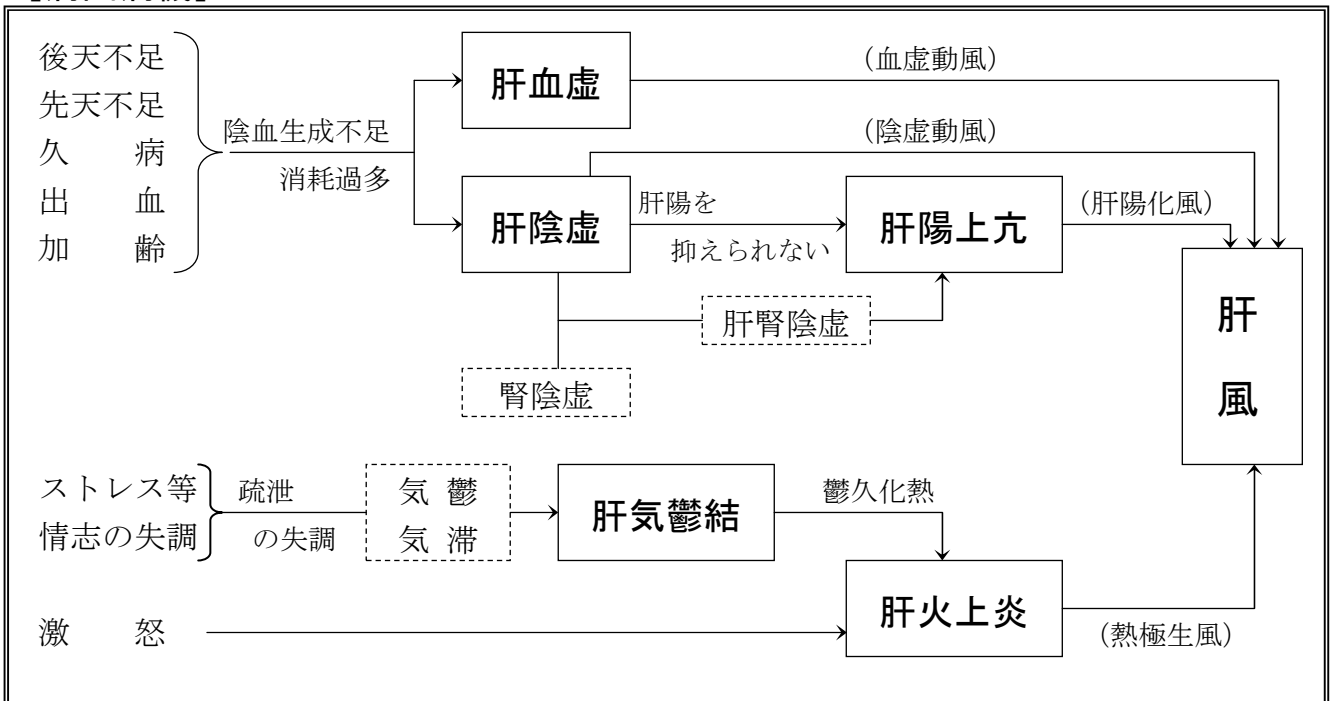
- ① 疏 泄：肝には気機を疏通させのびやかに往き来させる働きがある。
- ② 蔵 血：肝は血を貯蔵し、血量を調節する働きがある。

復習 2. 『 肝の気血陰陽失調の傾向 』

肝： 肝気↑ — 肝血↓ — 肝陰↓ — 肝陽↑

- [分類]
- 虚 証：肝血虚、肝陰虚
 - 実 証：肝気鬱結、肝火上炎 (⊗肝火亢進)
 - 虚実挟雑証：肝陽上亢 (⊗肝陽亢進)、肝風 (熱極生風を除く)

[病因病機]



『 肝風 』

肝の熱が極まったり、陰や血の不足が極まると発生する動揺・眩暈・痙攣等の症状を指す。

[常見症状]

『 主症状 』

精神抑鬱、イライラ、易怒、胸脇苦満（脹痛・灼痛）、瘕瘕、手足のひきつれ、目の乾き・かすみ、眩暈、脈弦

- * 肝の関連部位：脇肋部・少腹部、目、筋、陰部 等の症状
- * 疏泄の失調 →（気滞 等）：イライラ・易怒、精神抑鬱
- * その他：眩暈、頭痛、弦脈；口苦 ---- 実証時のみ

『 代表病証 』

① 肝血虚

：肝を構成する物質のひとつである肝血が不足した病態。

[症 状] 肝主症状 + 血虚症状

② 肝陰虚

：肝を構成する物質のひとつである肝陰が不足した病態。

[症 状] 肝主症状 + 陰虚症状（津液不足症状+虚熱症状）

③ 肝気鬱結

：肝の疏泄作用が低下し気滞が発生している病態。

[症 状] 肝主症状 + 気滞症状

④ 肝火上炎

：肝を構成する物質のひとつである肝陽が亢進した病態。

[症 状] 肝主症状 + 実熱症状

⑤ 肝陽上亢

：肝陽の高まりを抑制する肝陰（や腎陰）が不足し、それによって肝陽が高まっている病態。（虚実挟雑；上実下虚）

[症 状] 肝主症状 + 陰虚症状(肝腎陰虚症状) + 実熱症状

※ 臨床では実熱症状が顕著で虚熱症状が見られないことも多い。

※ 上実下虚 { 上 実 : 頭部脹痛、顔面紅潮、目赤、耳鳴 等
 下 虚 : 腰膝酸軟 等 腎虚の表現

⑥ 肝 風

[基本症状] 動揺・眩暈・痙攣

肝風類型	症 状
肝陽化風	* 眩暈が顕著、頭が揺れ手足が震える。 * 或いは舌が強ばり話せない、いきなり倒れて意識を失う、半身不随 等 (中風 = 脳卒中)
熱極生風	四肢の痙攣、頭項部の硬直、角弓反張、両目が上を向く、牙関緊閉
陰虚動風	手足の震え、不随意運動
血虚生風	手足の震え、(顔面部) 筋肉のひきつきり、関節の強ばり、四肢・体幹の麻痺

『 代表病証まとめ 』

	証 名	八 綱	具 体 症 状
①	肝血虚	裏 虚	精神抑鬱、イライラ、易怒、胸脇苦満、痙攣、手足のひきつれ、目の乾き・かすみ、眩暈、顔面蒼白・萎黄、爪・唇・眼瞼結膜の色が薄い、手足の痺れ、白髪・脱毛、月経不調、舌淡、脈弦細
②	肝陰虚	裏虚熱	精神抑鬱、イライラ、易怒、胸脇苦満、痙攣、手足のひきつれ、目の乾き、眩暈、口・唇・咽喉・皮膚・粘膜 等の乾燥、口渇、尿量減少、大便乾燥、微熱、潮熱、五心煩熱、盗汗、舌紅少津、脈弦細数
③	肝気鬱結	裏 実	精神抑鬱、イライラ、易怒、胸脇苦満・脹痛、口苦、眩暈、少腹部の張り、情緒により症状が変化、太息が多い、噯気、失気で症状緩和、脈弦

④	肝火上炎	裏実熱	精神抑鬱、イライラ、易怒、胸脇苦満・灼痛、口苦、眩暈、 壯熱、顔面紅潮、目赤、煩燥、口渇・喜冷飲、尿少色黄、大 便乾燥、舌紅（或いは舌絳・紅絳）苔黄、脈弦数
⑤	肝陽上亢	裏・虚実 挟雜・熱	精神抑鬱、イライラ、易怒、胸脇苦満・灼痛、痙攣、手足の ひきつれ、目の乾き、眩暈、口・唇・咽喉・皮膚・粘膜 等 の乾燥、壯熱、顔面紅潮、目赤、煩燥、口渇・喜冷飲、尿少 色黄、大便乾燥、舌紅（或いは舌絳・紅絳）苔黄、脈細弦数 或いは腰膝酸軟 等 腎虚症状

【練習問題】

問 1. 次の肝の証名の中で一般的なものを 2つ 選べ。

1. 肝陰虚
2. 肝陽虚
3. 肝気虚
4. 肝血虚

問 2. 次の心の病証の中で実証に含まれるものを 全て 選べ。

1. 心火亢進
2. 心陰虚
3. 心脈阻滯
4. 心血虚

問 3. 肝陽上亢証に関係のないのはどれか。

1. 肝陽の高まり
2. 肺陰虚
3. 肝陰虚
4. 腎陰虚

問 4. 「胸脇苦満、めまい、潮熱、盗汗、弦細数脈」は次のどの病症か。

1. 脾胃湿熱証
2. 肝陰虚証
3. 心火亢進証
4. 肝気鬱結証

問 5. 次の症例を見て証名（例：心気虚証）を答えよ。

「38歳女性、心悸を訴え来院。心悸は月経後特に顕著。心煩、不眠、多夢、顔面特に唇・爪等の蒼白、眩暈、手足の痺れ等随伴症状を伴う。舌淡、脈細。」